

# 県政 トピクス

## 選挙と任期のズレが解消します!

阪神淡路大震災の影響で当時の議員の任期が2か月延長されたため、議員任期と選挙期日に2カ月の「ずれ」が生じています。新人議員の場合、当選しても2か月は議員ではなく、落選した現職議員は、選挙後2か月間も議員のままという状況でした。この「ずれ」の解消に向け、対象となる兵庫県、神戸市、西宮市、芦屋市の各議会での議論し、最終的には国会で議員提案の特例法を制定して、次回の選挙のみ当選した議員の任期を3年10か月に短縮することで「ずれ」を解消することとなりました。

## 地域サポート

### JR高架下の街灯をLED化 (神楽町と4丁目と若松町1丁目の間)



JR高架下の街灯が暗くて危ないとの指摘を受け、神戸市に申入れを行い、全ての電灯を蛍光灯からLED化し、昼間も点灯するように改善されました。

### 丸山のスピード落とせ等の表示 (鶯町～檜川町)



鶯町方面から檜川町への坂道を下っていく道路について、スピードを出してさうこうする車が多く危ないので、対策してほしいとの要望を受け、警察と道路管理者と相談の上、当面電柱巻きの「スピード落とせ」等の表示を所要所に設置することになりました。

### 神戸マラソンに出場して

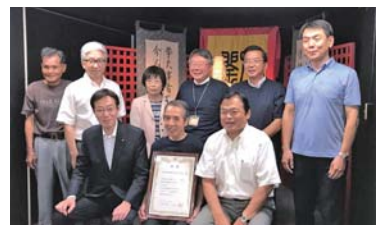


出場抽選にやっと当選した神戸マラソンで、人生初マラソンにチャレンジし、完走することができました。全国各地、また世界中から国際色豊かに合計2万人が参加する神戸マラソンは、沿道の熱い応援と、変化に富んだ景色を味わえるすばらしい大会でした。スポーツツーリズムの振興が、県内の大きな経済効果と、活性化に直結することを実感しました。

### その他の活動



細田福祉センターでのふれあい喫茶



丸五市場100周年記念表彰



新長田にできる県市合同庁舎起工式



井戸知事との対談

#### こしだ浩矢 プロフィール

- 昭和43年6月18日生まれ
- 昭和56年／神戸市立若草小学校卒業
- 昭和59年／神戸市立白川台中学校卒業
- 昭和62年／兵庫県立長田高等学校卒業  
陸上部に所属(100m10秒9)
- 平成 3年／慶應義塾大学法学部卒業

- 平成 3年／JR西日本入社  
京都伊勢丹開業や新規事業、きっぷのネット予約、JRおでかけネットの立上げ、宣伝等を担当
- 平成10年／神戸大学大学院  
経営学研究科 修士課程修了
- 平成23年／兵庫県議会議員 初当選
- 平成27年／兵庫県議会議員 2期目当選

# こしだ 浩矢 県政レポート Vol.12

〒653-0842 神戸市長田区水笠通3-1-1-1003 TEL & FAX. 078-754-6618 【メールアドレス】koshida168@gmail.com



## 農政環境常任委員としての活動(6月～)

本年度所属する農政環境常任委員会では、食料の安定供給や農林水産業の持続的発展、地球温暖化対策や自然環境の保全・再生などについて調査・審査等を行います。

### ■兵庫県農林水産技術総合センター

ICTを活用した農業生産技術の開発や、兵庫県産のブランド米の新品種開発の現場を視察しました。米の新品種は10万パターンから美味しく安心安全で、ひょうごの風土にも合致したブランド米を、従来のやり方よりも短期間で開発することを目標に取り組んでいます。新しい品種が各県から誕生し、競争が激化している中で酒米の山田錦に匹敵するような、兵庫の美味しい食用ブランド米が誕生することを期待します。



### ■株式会社さかうえの新しい農業の取組み

作物ごとの工程の完全マニュアル化や、契約栽培による売り先を確定した上での計画栽培など、株式会社による儲かる農業の実践について視察。大卒の新社員も毎年入社しており活き活きと働く姿が印象的でした。担い手不足が課題の農業も、成功事例のよい点を見習いつつ、若者が夢を持って働ける農業にしていきたいために取組みを強化していく必要を感じました。



### ■宮崎県木材利用技術センター

#### 木材利用促進に向けた技術的な支援について視察

宮崎県小林市役所の新築において、技術センターが木材を多用する設計や材料の手配についてサポートした実例を学びました。兵庫県では議員提案で「兵庫県産木材の利用促進に関する条例」を制定し林業振興に取り組んでいますが、高層建築にも利用可能なCLT(直行集成板)を活用する設計や建築の技術の普及が障壁となっているので、宮崎県の取組みは非常に参考となりました。



木材を多用した  
小林市役所

宮崎県木材利用技術センター・木材の耐久性試験

### ■鹿児島県福山町の壺づくり黒酢

#### 国の地理的表示(GI)保護制度に登録された特産品

黒酢の商品そのもののブランド化と、商品づくりを観光資源化し、飲食やお土産販売もセットにした取組みで観光振興を行っている取組みは非常に参考になります。



## 警察常任委員会委員長としての活動(～6月)

### ■尼崎東警察署の新庁舎落成式

既存の警察署と民間施設を賃貸して運営していた尼崎東警察署が、その機能を拡充して新庁舎として落成しました。女性専用留置所や交通管制センター機能などを備え、拠点機能が強化されました。



# 議会活動等を通じての成果



## 暴力団対策において、事務所新設の規制を強化する条例改正や、「特別暴力団対策隊」が新設!

六代目山口組の分裂で暴力団の抗争状況が続いていることで市民の不安が高まっていることや、長田区内の明泉寺地域の暴力団拠点施設の地元住民による、活発な追放運動を後押ししたいという強い思いで、議会での質問や知事や県警本部長への政策要望、警察常任委員会の活動等で、暴力団対策強化や住民暴排運動の支援等を訴えてきました。



山口組総本部への捜索

昨年度から今年6月まで私は警察常任委員会の委員長として、年間の調査研究テーマを「暴力団壊滅に向けた対策」として活動し、福岡県警の暴力団工

藤会対策の現状視察を行うなどして、山口組関連の抗争対策として兵庫県警で取り組むべきことをまとめ、提言を行うなどしてきました。

### 【その成果として】

- ①8月に暴力団排除条例が改正され、全国初で暴力団事務所の新設を、商業地を含む市街地中心部で全面的に禁止するよう規制が強化されました。
- ②福岡県警の視察で特別遊撃隊(徹底した職務質問等により暴力団を抑え込む活動をする部隊)の先進事例を兵庫でも見習うべきとの提言により、兵庫県警でも500人態勢の「特別暴力団対策隊」が新設され、歓楽街のパトロール強化や資金源解明に取り組むことになりました。

暴力団対策を今後も強力に推し進めていきます。

## 認定こども園の適正な運営に向けた改善が実現!

社会福祉の多様なニーズに対応するため、公立だけでなく民間の社会福祉法人やNPOの運営による社会福祉施設が各地に増え、福祉の向上に貢献しています。しかし障がい者福祉施設における職員による利用者への虐待や、施設の安全管理体制の盲点を突いた事件の発生、基準を満たさない保育所運営などについてマスコミで報道されています。



不適切な保育の実態が問題となった保育園

6月の代表質問で、補助や認可を行う県として、社会福祉施設への監査

強化のあり方について質問し、特に職員や利用者は一番近くで普段から見ている立場でおかしいと感じたら通報できる体制を整えるよう提案しました。

### 【その結果】

- ①認定こども園、保育所等ホットラインが新たに開設されました。保育の実態に問題があったと感じた職員や保護者からの通報窓口を設置。速やかな通報に基づき、実態把握、指導改善につなげ、保育の質の向上を図ります。
- ②認可・認定の手続きの見直しとともに、「運営チェックポイント集」を活用した指導監督の強化、園長の資質能力向上のための研修制度を充実するなどの改善がなされました。

## 防犯カメラの設置補助の件数が今年度は500台に拡大!

長田区内の小学生殺害事件をきっかけに、地域の安全に対する不安が高まったことを受け、私は本会議の質問において県の防犯カメラ設置補助事業の充実を訴え、これまで予算の倍増を実現してきましたが、今年度は更に拡充し、500台分の防犯カメラ設置の補助予算が実現しました。



# 会派(公明党県民会議)での活動

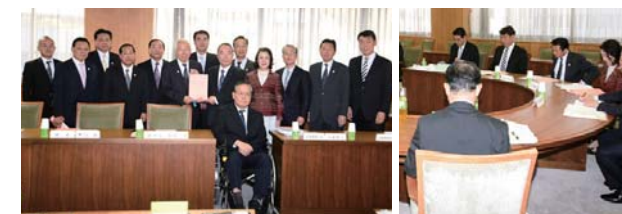
## ■地域政策要望会

県内の主に地方部の市長、町長の要望や意見を伺う会を、但馬、丹波、西播磨、北播磨、淡路で実施しました。経済活動や生活を支える道路の整備や、鳥獣被害対策等に関する意見が多く出されました。



## ■来年度予算編成に対する知事への申入れ

来年度予算編成に対する最重点要望事項として、①社会基盤インフラ整備の推進、②高校生の就学支援制度の充実、③介護施設等の整備加速化、④鳥獣被害対策の推進をはじめ、県政全般にわたる364項目について井戸知事に申入れを行いました。



## ■国要望

阪神高速湾岸線西伸部の早期実現をはじめ、県政に関わる国の来年度予算への申し入れを、国交省、厚労省、文科省、農水省、内閣府の各省庁の大臣、副大臣、政務官を訪ねて行いました。



## 地域の活性化に取り組む事例の視察を通じて感じたこと

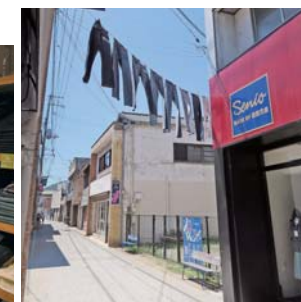
会派視察で、地域活性化の成功例と言われている岡山県の児島ジーンズストリート、香川県の丸亀商店街、愛媛県の今治タオルを視察しました。

### 児島ジーンズストリート(岡山県倉敷市)

国産ジーンズ発祥の地・児島では、ユニクロのような格安ジーンズとは異なるプレミアムなジーンズ(おおよそ2万円以上)を扱うショップを商店街の空き店舗に展開。年間15万人が訪れるジーンズの聖地になっています。人気に火がついたのはテレビ報道がきっかけのことでしたが、話題性を作って戦略的にPRすることが重要だと感じました。



1本2万円程度するジーンズが並んでいました



ジーンズが飾られている児島ジーンズストリート



古民家を活用したジーンズショップ

### 丸亀商店街の商店街再生(香川県高松市)

再生のリーダー古川理事長から成功の理由についてお話を伺いました。商店街の不動産が個人所有であることの問題を解決するため、共同出資会社が定借契約で使用权を取得し、プロの運営会社が空き店舗の発生を防ぎ、魅力あるテナント誘致をして、常に鮮度を保つ工夫をしているとのこと。理事長は日本全国の再開発の失敗例を徹底的に分析し、どうすれば成功できるかを考えたことのお話に説得力がありました。



運営会社が再開発した商店街。土地の所有者は家賃を収受する。

### 今治タオルのブランド化による地場産業振興(愛媛県今治市)

タオル業界は海外製の安い製品に市場を奪われ売上が右肩下がりでしたが、価格ではなくタオルの品質面の付加価値を高めて勝負する戦略で、ロゴやブランド管理全般のプロデューサーに佐藤可士和氏を起用。結果、生産量は微増、利益率が2~3割もアップし成功することができたとのこと。

長田のケミカル業界が神戸シューズのブランド化に取組んでいるのは方向性はいいと思いますが、客観的に品質の違いをどう打ち出せるかが重要ではないでしょうか。



多くの観光客が買いに来る今治タオルの展示即売コーナー。